

広報委員会

視察地 ①岩手県盛岡市（7月16日） ②宮城県美里町（7月17日）
テーマ 議会広報紙について

盛岡市議会では、議会だよりの特徴として、表紙には写真ではなく、タイトルロゴを大きく掲載することや、議案に対する会派ごとの意見や特集記事を掲載するなど、市民にとってさらに手に取りやすい議会だよりを目指して、工夫がされていた。そのなかでも、創刊以来約50年使用してきたタイトルロゴを刷新するとともに、広報委員自らが特集記事の作成を行い、市民が読みたいと思うような内容の記事作成に努めていた。一方、読者層を若い世代に広げることや紙面のさらなる充実を図ることを課題として挙げており、SNSの活用、アンケートの実施を検討しているとのことであった。

美里町議会では、議会だよりに行政用語、議会用語はなるべく使用せず、カタカナ語や難しい語句には注釈を入れ、説明を付けるとともに、小学校高学年生が読んでも理解できるよう、表現を簡潔にするなどの工夫がされていた。特に、ページの見出しが的確で目立つうえ、写真を多用し、掘みのあるレイアウトで、視線誘導がある紙面となっていた。また、常設企画が充実しており、住民参加を意識した企画展開がされていた。



中核市議会報コンクールで最優秀賞を受賞した盛岡市での研修風景



議会だよりの充実のため（美里町）

福祉文教委員会

視察地 ①宮城県登米市（8月7日） ②宮城県多賀城市（8月8日）
③下館給食センター（10月24日）
テーマ ①健康づくり宣言による住民参加型の取組について
②介護予防サポーターの自主組織である多賀城市多賀モリ会の活動について
③学校給食の献立作成及び食育の状況について



健康づくりの説明を受ける（登米市）



介護予防の推進に向けて（多賀城市）



献立作成について学ぶ（下館学校給食センター）

登米市では、令和2年に健康づくり宣言を行い、地域や企業、大学と連携して市民の健康づくりの推進に取り組んでいる。特に「尿ナトリウム比」に着目した取組においては、大学と連携し、特定健診時に体内のナトリウムとカリウムのバランスを測定し、適塩を推進している。

多賀城市では、市民自らによる介護予防の推進として、介護予防サポーター養成講座を行っており、修了した方たちでつくる「多賀モリ会」が地域の中で活動している。団体自身が市内イベント等へ積極的に参加し、運動に限らず、社会性へのアプローチをすることでフレイル予防につなげている。

下館学校給食センターでは献立作成を文部科学省学校給食摂取基準の栄養価をもとに行い、成長期の児童生徒に不足しがちな栄養素を意識して取り入れている。不足しがちな野菜は積極的に取り入れており、その結果カリウムの摂取量を増やしている。献立の作成においては、食材費の高騰をはじめ困難なことが多々あるが、学校給食や食に関する指導を通じて、子供たちがずっと健康でいられる食習慣が継続できるようにしていきたいとのことであった。

議会運営委員会

視察地 ①新潟県村上市(10月10日) ②新潟県新発田市(10月11日)
 テーマ ①議員定数の見直しについて ②議員定数の在り方について

村上市議会では、令和6年4月の市議会議員一般選挙から議員定数20人(22人から2人減)が適用された。定数2人減をするに当たり、パブリックコメントを実施した結果、定数減に賛成の声が多かったが、一方で、面積が県内で最も広いことや少子高齢化社会の中で市民に寄り添ってくれる議員が身近にいることを望む声もあり、反対との意見もあった。議員定数削減に伴い、議員報酬についても議会運営委員会において審査したが、検討を行わないとして改正には至っていない。議員定数については、今後2期は現状のままとの考えである。

新発田市議会では、令和元年4月の市議会議員一般選挙から議員定数25人(27人から2人減)が適用された。議員定数については、おおむね2期で見直す流れとなっている。市民の意見の反映については、市民アンケート実施に向け準備中であり、内容はできるだけ簡易なものとするように作成している。さらに、年2回市民向けのWEB報告会を実施しており、令和5年度から「定数・報酬」をテーマとして市民と意見交換をしている。



挨拶をする仁平委員長
(村上市)



議員定数の在り方について
説明を受ける(新発田市)

総務企画委員会

視察地 ①静岡県磐田市(11月12日) ②埼玉県北本市(11月13日)
 テーマ シティプロモーションの取組について



シティプロモーションの
取組を学ぶ(磐田市)



市役所内を視察する(北本市)

磐田市では、簡単に情報発信できる地域情報サイト「いーわいわた」を市の準公式サイトと位置づけて運営している。このサイトは行政だけではなく市民も情報を自由に掲載できることが特徴である。また、市内外の一般の人を「我こそはインフルエンサー」という情報発信者として任命し、市の魅力を広く発信してもらうとともに人材育成を図っている。そのほか、サッカーJ1のジュビロ磐田と連携し、在住するジュビロサポーターとの交流を内容とした移住体験ツアーを実施するなど、スポーツが交流の架け橋となる取組を行っている。

北本市では、市内に残る多くの自然を活用して「& Green (アンドグリーン)」という「豊かな緑に囲まれた、ゆったりとした街の中で、新しい暮らしを」というコンセプトのもと、市民にまちへの愛着を持ってもらい住み続けてもらうこと、そして、地域の活動に参加してもらうことでまちの活力を維持することを目的にシティプロモーションを展開している。このターゲットとして、25歳から34歳までの女性に絞り、様々な取組を実施した結果、令和2年度に人口の社会増に転じ、消滅可能性都市を脱却した。今後は10代や20代前半の若者にもアプローチしながら、引き続き市民の愛着醸成を図り、転出を減らし、市民に住み続けてもらうための取組を行っていくとのことであった。